

秋田市総合交通戦略 比較表

第3次秋田市総合交通戦略(現行)
令和3年度～令和7年度(5年間)

基本的な方針	
多核集約型の都市構造を形成し、誰もが自由に最適な移動手段を選択できる交通体系の実現	

目標1 歩行者・自転車関係

目標	誰もが安全・安心かつ快適に利用でき、 にぎわいの創出 に寄与する歩行者・自転車交通環境の実現
施策パッケージと施策	1 誰もが安全・安心かつ快適に利用できる歩行者・自転車空間の整備 (1)安全で快適な歩行環境の確保 (2)無電柱化による歩行者空間の確保 (3)歩道の消融雪設備整備 (4)歩道のバリアフリー化 (5)自転車利用環境の整備 (6)自転車利用に関する啓発活動 2 にぎわいの創出 に寄与する交通環境の実現 (1)中心市街地循環バスの運行および利用環境向上 (2)バスを活用したにぎわい創出

目標2 公共交通関係(公共交通政策ビジョンで詳細検討)

目標	まちの変化に柔軟に対応し、誰もが自由に移動できる、将来にわたり持続可能な公共交通サービスの実現
施策パッケージ	1 多核集約型の都市構造を形成する公共交通ネットワークの整備 (1)バス路線再編 (2)鉄道の利便性向上 (3)乗換ポイントの環境整備 2 利便性向上、バス路線運営適正化に向けた取組の推進 (1)バス運行情報提供の充実 (2)バス利用環境の改善 (3)利用しやすいバス運賃の検討 (4)公共交通利用の促進 3 持続可能な公共交通の確保に向けた仕組みづくりの推進 (1)マイタウン・バスの持続的な運営 (2)新たな交通手段等の導入

目標3 その他自動車交通関係

目標	拠点間ネットワークを形成する道路網の実現
施策パッケージ	1 多核集約型都市の骨格となる3環状放射型道路網の整備 (1)環状道路の整備 (2)放射道路・分散導入路の整備 2 拠点間ネットワークを強化し走行性を高める道路整備 (1)バス路線における道路整備 (2)渋滞を緩和する道路整備 (3)市内外の連携を強化する道路整備 3 安全で円滑な交通の実現に向けた取組 (1)交通事故対策 (2)TDM(交通需要マネジメント)による渋滞緩和施策

基本的な方針	
多核集約型コンパクトシティを形成し、誰もが自由に最適な移動手段を選択できる交通体系の実現	

目標	誰もが安全・安心かつ快適に利用でき、 回遊性の向上 に寄与する歩行者・自転車交通環境の実現	主な事業内容
施策パッケージと施策	1 誰もが安全・安心かつ快適に利用できる歩行者・自転車空間の整備 (1)安全で快適な歩行環境の確保 (2)無電柱化による歩行者空間の確保 (3)歩道の消融雪設備整備 (4)歩道のバリアフリー化 (5)自転車利用環境の整備 (6)自転車利用に関する啓発活動 2 回遊性の向上 に寄与する交通環境の実現 (1)中心市街地における回遊性の向上 (2)公共交通等の利用促進	●道路整備に合わせた、歩行者・自転車空間や消融雪設備の整備、バリアフリー化の実施 ●県の自転車条例や(仮称)秋田市自転車活用推進計画などに基づき、マナー向上、ルール認識のための啓発活動や自転車利用促進のための情報発信など ●公共、民間施設等を活用したシェアサイクルの導入検討 ●周辺施設と連携したぐるるやシェアサイクルの割引制度の導入検討 ●市民講演会等による利用促進など

目標2 公共交通関係(公共交通政策ビジョンで詳細検討)

目標	多様な交通モードの連携・協働による、将来にわたり持続可能な公共交通サービスの実現	主な事業内容
施策パッケージと施策	1 多核集約型コンパクトシティを形成する公共交通ネットワークの整備 (1)公共交通ネットワークの再構築 (2)地域内移動の確保 (3)乗換拠点の環境整備 2 利用しやすい公共交通サービスの提供に向けた取組の推進 (1)運行情報提供の充実 (2)バス利用環境の改善 (3)利用しやすい運賃の検討 3 持続可能な公共交通の確保に向けた仕組みづくりの推進 (1)関係者との連携・協働による公共交通の確保・維持 (2)支援制度の充実	詳細は次ページのとおり 「秋田市公共交通政策ビジョン 比較表」

目標3 その他自動車交通関係

目標	拠点間ネットワークを形成し、生活や経済活動の基盤となる道路網の実現	主な事業内容
施策パッケージと施策	1 多核集約型コンパクトシティの骨格となる3環状放射型道路網の整備 (1)環状道路の整備 (2)放射道路・分散導入路の整備 2 拠点間ネットワークを強化し走行性を高める道路整備 (1)バス路線における道路整備 (2)渋滞を緩和する道路整備 (3)市内外の連携を強化する道路整備 3 安全で円滑な交通の実現に向けた取組 (1)交通事故対策 (2)TDM(交通需要マネジメント)による渋滞緩和施策	●市内の交通の円滑化と、市街地への通過交通の流入を回避させる環状道路網の整備など ●渋滞緩和のための道路整備によるバス走行環境の改善など ●ノーマイカー通勤や時差出勤、公共交通等利用による、自動車需要の適正化に向けたTDM施策の推進など

秋田市公共交通政策ビジョン 比較表

第3次秋田市公共交通政策ビジョン(現行)

平成3年度～令和7年度(5年間)

基本的な方針	
まちの変化に柔軟に対応し、誰もが自由に移動できる、将来にわたり持続可能な公共交通サービスの実現	

目標	1 多核集約型の都市構造を形成する公共交通ネットワークの整備
施策パッケージ	(1)バス路線再編 •乗継を考慮したバス路線全体の見直し •中心市街地循環バスの利便性向上 (2)鉄道の利便性向上 •泉外旭川駅(新駅)の利活用 •鉄道駅のバリアフリー化 (3)乗換ポイントの環境整備 •快適に過ごせる乗換空間の整備

目標	2 利便性向上、バス路線運営適正化に向けた取組の推進
施策パッケージ	(1)バス運行情報提供の充実 •より使いやすいバスマップの作成 •ICTを活用した運行状況等の提供 (2)バス利用環境の改善 •誰もが利用しやすいバス利用環境の整備 (3)利用しやすいバス運賃の検討 •ICカード導入を踏まえたわかりやすい料金制度等の導入 •乗換時における割引運賃等の導入 •高齢者や障がい者等に対する運賃の助成 (4)公共交通利用の促進 •バスを使ったまち歩きなどの情報提供 •公共交通を活用した豊かなライフスタイルの提供

目標	3 持続可能な公共交通の確保に向けた仕組みづくりの推進
施策パッケージ	(1)マイタウン・バスの持続的な運営 •マイタウン・バスの利便性向上の検討 •持続的な地域の移動手段の確保 (2)新たな交通手段の検討 •タクシー等を活用した、新たな生活交通の導入 •貨客混載・スクールバス等の活用 •独占禁止法特例法による交通事業共同経営体の設立 •ICT・ビッグデータを活用した効率的な運行の実施

第4次秋田市公共交通政策ビジョン(素案)

令和8年度～令和12年度(5年間)

基本的な方針		
多様な交通モードの連携・協働による、将来にわたり持続可能な公共交通サービスの実現		
目標	1 多核集約型コンパクトシティを形成する公共交通ネットワークの整備	主な事業内容
施策パッケージ	(1)公共交通ネットワークの再構築 •乗換を前提とした公共交通ネットワークへの見直し •マイタウン・バスの持続的な運営 •中心市街地循環バスの利便性向上 (2)地域内移動の確保 •エリア交通の運行 (3)乗換拠点の環境整備 •快適に過ごせる乗換空間の整備	●鉄道・バス・タクシーによる、乗換を前提とした公共交通ネットワークへの再構築 ●マイタウン・バスの安定運行の継続による郊外部の移動手段の確保 ●ぐるるの運行ルート見直しや無料デーの実施 ●エリア交通の運行による地域内移動の確保 ●乗換の負担を軽減するための環境整備の検討 ●公共、民間施設等を活用した乗換拠点や公共交通と自転車などが接続する「モビリティハブ」の整備検討など
目標	2 利用しやすい公共交通サービスの提供に向けた取組みの推進	主な事業内容
施策パッケージ	(1)運行情報提供の充実 •ICTを活用した運行状況等の提供 (2)バス利用環境の改善 •誰もが利用しやすいバス利用環境の整備 (3)利用しやすい運賃の検討 •分かりやすい料金制度等の導入 •乗換時における割引運賃等の導入	●スマートフォン等による、バスロケーションシステムを活用したリアルタイム運行状況の提供継続 ●乗換を容易にする、オンデマンド交通を含む多様な交通モード間における複合経路検索が可能な乗合案内サービスの導入検討 ●安全性確保のためのバス停の設置環境の改善 ●ICカードを活用した乗換割引の導入検討など
目標	3 持続可能な公共交通の確保に向けた仕組みづくりの推進	主な事業内容
施策パッケージ	(1)関係者との連携・協働による公共交通の確保・維持 •公共交通等の利用促進 •限られた輸送資源を活用した交通手段等の導入 •連携協定に基づく取組の推進 (2)支援制度の充実 •財政的支援の実施	●市の広報や講演会等による、地域公共交通を「乗つて守る」という市民の意識醸成 ●運賃の助成などによる多様な世代の利用促進 ●限られた輸送資源(ヒト・モノ)を活用した新たな交通手段等(公共交通ライドシェアや上下分離方式等による公設民営化、自動運転移動サービス、貨客混載AIオンドマンド交通など)の導入検討 ●連携協定に基づく持続可能な公共交通サービスの実現に向けた取組の推進 ●地域交通の維持等の取組に対する支援制度の実施など